

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2018年10月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2018年10月5日～29日
- 調査対象 200社
- 回答企業 111社
- 回収率 55.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の10月の状況を見ると業況DIは、前月より3.3ポイント悪化の▲34.2となった。

2017年9月以来14ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲36.6、当月に比べ2.4ポイントの改善を見込んでいる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2018年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2018年11月～ 2019年1月
業況	▲21.9	▲23.9	▲19.3	▲19.4	▲30.9	▲34.2	▲36.6
売上	▲14.9	▲18.2	▲7.9	▲12.8	▲25.2	▲20.7	▲21.8
採算	▲21.9	▲21.8	▲17.5	▲21.1	▲31.5	▲25.2	▲27.9
仕入単価	▲39.4	▲36.4	▲39.8	▲42.6	▲38.7	▲43.7	▲40.5
従業員	31.9	32.7	25.4	32.4	27.9	33.3	33.3
資金繰り	▲6.2	▲4.5	▲4.4	▲6.5	▲7.2	▲9.9	▲12.6

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2018年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2018年11月～ 2019年1月
建設	▲16.0	▲18.5	▲25.9	▲30.8	▲34.6	▲51.9	▲39.3
製造	▲27.6	▲37.5	▲28.0	▲30.8	▲26.9	▲25.0	▲32.2
卸売	▲28.6	▲30.0	▲8.3	0.0	▲33.3	▲15.0	▲15.0
小売	▲29.4	▲33.3	▲25.0	▲11.7	▲17.6	▲25.0	▲43.8
サービス	▲9.1	0.0	▲9.1	▲15.0	▲40.0	▲50.0	▲55.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足。特に技術者が足りないことで、受注できない工事があること。業界としても人材不足と下請業者不足が問題になっている。(総合工事)</li> <li>・工事受注量の減少、下請不足による施工単価上昇の2点を理由に工事の採算の悪化。資材価格・燃料の高騰。(総合工事)</li> <li>・民間工事の減少が続いている。(設備その他)</li> <li>・技術職員不足。中途採用者4名を教育訓練中ではあるが想定以上に時間がかかりそう。(設備その他)</li> <li>・消費税上昇に備え営業力を強化したが、その効果はまだ表れていない状況にある。職人の不足から工事が遅れ気味の状況にある。(建築)</li> <li>・12月末頃から翌年1月前半多少売上減少か?(建築)</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の影響で観光地への出荷が減少するも首都圏への出荷が増え何とか売上は維持。(食料品)</li> <li>・長期傾向としての紙媒体のマーケット縮小に加えて、9月の地震の影響が10月もマイナス材料として残っている。年内に向けて、景況感の回復兆しは期待できない(印刷・出版)</li> <li>・ここ数年取組んできた、仕組みづくりや意識改革が少しずつ芽を開いてきた。設備投資をして仕事量を増やすことより、一つ一つの仕事へかける経費(時間)をどれだけ短縮し利益に繋げていくかを目標とすることによって、社会コミュニケーションも活発になってきた。強固な組織作りはこれからの時代を生き抜いていく中で最重要課題だと思う。(金属鉄工窯業他)</li> <li>・当社基礎資材仕入価格の上昇が続いているが、物流(台風によるフェリーの欠航、地震による苫小牧の埠頭の混乱)により入荷の予定が立てづらい。(金属鉄工窯業他)</li> <li>・消費税増税は負担増で景気が腰折れする。施策を多く作っても需要が下がるのは目に見えている。法改正して減税した方が経済が安定する。特に北海道は災害と天候不良で余裕が無い。(金属鉄工窯業他)</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度と同等の売上・採算であると思われる。(機械鋼材)</li> <li>・灯油の販売価格は10月に入り、税込100円/ℓを超えており、当面は現在の価格が続くものと思われます。仕入価格の下げ情報があるものの小幅なものと思われます。(その他)</li> <li>・天候不順や9月の地震の影響により道産物が出回っていない状況となっている。また各地からの出荷量も減少し品薄状態のため、単価が上昇している。しかし、売上自体に変化は無いため、いびつな状況となっている。(その他)</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温の変化(寒暖差)があり、月前半は秋物商品の動きは全くない。2月、8月が季節の変わり目、衣替えの月度売上が一番厳しいが、近年は9月の売上が伸びず、今回は地震もあり売上は前年の50%に落ち込みそう。(衣服見回品)</li> <li>・設備の老朽化(食料品)</li> <li>・従業員不足が解消されない(その他)</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月6日の大地震の影響で北海道の宿泊8割キャンセル。市内はじめ全道のホテル9月の予約に相当のダメージ。当社もホテルリネン5割近く減少。病院寝具、ホームクリーニングは、前年比変わらず。(理美容クリーニング)</li> <li>・9月6日、7日の停電のため連休となり売上の減少。又、燃料の高騰は続く予想される。(運送)</li> <li>・地震により、当面の自粛やインバウンドの減少が痛い。(ホテル・旅館)</li> <li>・地震の影響により、9月は営業停止日があり、9月中のイベント関係が中止等で国内旅行代理店、海外旅行代理店がキャンセル。今後は特にインバウンドの減少が懸念される。(ホテル・旅館)</li> <li>・9/6の地震によるキャンセル・売上損失で厳しい状況が続く。先行き不透明。(ホテル・旅館)</li> <li>・地震後、売上が下がっている。観光客が減少しているのでは?電気の問題を早く解決して欲しい。(飲食)</li> <li>・天候不順により客足激減。地震の影響で一時的に客数は増えたが人手不足で対応できず。土日祝働ける人材の確保が非常に困難。(飲食)</li> <li>・自動車業界、事故が減ってきている。(整備)</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI ほぼ横ばい、採算 DI3.7 ポイント改善、仕入単価 DI3.7 ポイント悪化、資金 DI11.1 ポイント悪化、従業員 DI3.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.3 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 10 ポイント、設備・その他 22 ポイント、建築 15 ポイント悪化となった。消費税増税に備え営業力を強化したが、その効果はまだ表れていない状況にある。職人不足から工事が遅れ気味の状況にあるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI0.4 ポイント改善、採算 DI5.5 ポイント改善、仕入単価 DI14.5 ポイント悪化、資金 DI3.2 ポイント悪化、従業員 DI7.0 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 1.9 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。業種別では、家具・木材 14 ポイント、金属窯業他 9 ポイント悪化、食料品 40 ポイント、印刷・出版 21 ポイント改善となった。長期傾向としての紙媒体のマーケット縮小に加えて、9月の地震の影響が10月もマイナス材料として残っている。年内に向けて景況感の回復兆しは期待できないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI4.5 ポイント改善、採算 DI18.5 ポイント改善、仕入単価 DI12.9 ポイント改善、資金 DI5.7 ポイント悪化、従業員 DI0.5 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 18.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等横ばい、食料品 13 ポイント、機械鋼材 25 ポイント、その他 33 ポイント改善となった。天候不順や 9 月の地震の影響により道産品が出回っていない状況となっている。また各地からの出荷量も減少し、品薄状態のため単価が上昇しているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI0.7 ポイント悪化、採算 DI13.2 ポイント悪化、仕入単価 DI13.2 ポイント悪化、資金 DI11.3 ポイント改善、従業員 DI は 8.8 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 7.4 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、その他、自動車横ばい、衣料品 50 ポイント悪化となった。従業員不足が続いているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI20.0 ポイント改善、採算 DI15.0 ポイント改善、仕入単価 DI2.8 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI20.0 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 10.0 ポイント悪化となった。業種別では、ホテル・旅館 60 ポイント改善、理美容・クリーニング横ばい、その他 70 ポイント、飲食 17 ポイント、整備業 25 ポイント、運送 50 ポイント悪化となった。10 月から売上は前年増の見込だが、食材、重油(光熱費)の高騰で採算は前年並の予測との声も寄せられている。</p>